

國學院大學大学院 社会人向けリカレント教育ガイド

1. はじめに

國學院大學大学院では、社会人の更なる学び——いわゆる「リカレント教育」——を促進するために様々な制度を導入しています。社会人としての経験を活かしながら、新たな学修を進めて修士号・博士号の取得を目指すことができます。人生 100 年時代を迎えた今、大学院でもう一度新たな「学び」を試みることで、自分の可能性を広げてみませんか？

2. 國學院大學大学院の特徴

本学大学院は、文学研究科・法学研究科・経済学研究科の 3 つの研究科に分かれています。また、文学研究科はさらに 3 つの専攻・2 つの分野・10 のコースに特化しています。文学研究科はわが国の私立大学の中でも最大規模を誇っており、本学大学院の中核をなしています。また、いずれの研究科においても、多彩で卓越した研究業績を有する教授陣の下、専門性の高い研究・教育を展開しています。

| 研究科 | 専攻 | 分野・コース | 学位 |
|--------|---------|------------|--------|
| 文学研究科 | 神道学・宗教学 | 神道学系 | 神道学 |
| | | 宗教学系 | 宗教学 |
| | 文学 | 日本文学 | 文学 |
| | | 日本語学 | 文学 |
| | | 中国文学 | 文学 |
| | | 伝承文学 | 文学・民俗学 |
| | | 高度国語・日本語教育 | 文学 |
| | | 史学 | 日本史学 |
| | 史学 | 考古学 | 歴史学 |
| | | 外国史学 | 歴史学 |
| | | 美学・美術史 | 歴史学 |
| | | 博物館学 | 歴史学 |
| 法学研究科 | | | |
| 経済学研究科 | | | 経済学 |

*それぞれの専攻・コースの詳細については別紙の大学院ガイドブックを参照してください。

3. 修士号取得までの道のり

大学院博士前期課程での目標は修士号の取得になります。必要な単位数（30 単位）を修

得すると共に、指導教員の指導の下、自分の希望するテーマを探求して学術論文（修士学位請求論文）を完成することが求められます。そして、最終試験での面接試験に合格すると修士の学位が授与されます。

*文学研究科・経済学研究科では、より多様性のある研究を促進するために、複数の指導教員による指導体制が採られています。

修了のためには、指導教員の担当する「論文指導演習（必修・8単位）」を受講する他、各研究科・専攻の定める必修科目・選択必修科目を受講する必要があります。残りについては、自分が関心のあるテーマや論文に関係するテーマに即して、授業・演習を履修して単位を修得します。

論文の執筆は長くて根気のいる作業になります。テーマ・研究方法の設定に始まり、先行研究を収集・分析して、自分独自の説を組み立てて展開することで学問の発展に貢献することが求められます。研究方法によっては、フィールド・ワークやアンケート調査等も必要になるでしょう。本学大学院では、特に国際的な調査・交流を促進するための助成制度（國學院大學大学院国際交流旅費補助）も設けています。

*修了要件の詳細については、別紙の学生便覧を参照してください。

4. 経済的な負担について

大学院の授業料等については、初年度で約90万円（他大学出身者）・約70万円（本学出身者）、次年度以降は約70万円（他大学出身者）・約60万円（本学出身者）が必要になります。本学大学院では、この負担を軽減するために下記のような制度を設けています。

*授業料等（入学金・施設維持費を含む）の詳細については、別紙の大学院ガイドブックを参照してください。

(1)早期修了（1年修了）

通常、修士課程の修了には2年を要しますが、特に優秀な業績を残してかつ論文を完成させた場合には、1年での修了が認められます。これにより、学費等の負担を軽減することができます。1年修了を達成するためには、要修了単位の修得が関門となりますが、科目等履修生（後述）を活用することで修得が容易になります。

*なお、早期修了の要件は各研究科で異なりますので、進学を希望する研究科に事前に照会するようにしてください。

(2)長期履修制度

就業や育児、介護、心身の障害等で十分な学修時間を確保できない方のために、博士前期課程（修士課程）には「長期履修制度」があります。長期履修が認められると、通常は「2年」の標準修業年限が「3年」又は「4年」に延長され、その分、年間の学費が減額されます。これにより、長期的な計画に基づき、各年の経済的負担を減らしつつ時間的余裕をもって修了を目指すことができます。

*例えば、「4年修了」の長期履修が認められると、他大学出身者であれば、年間の学費負担（授業料と施設設備費）は約35万円に減額されます（通常は約70万円）。ただし、修了までには4年間の在籍が必要ですので、修了までに負担すべき学費の総額には変わりはありません。

2年修了（通常）：学費負担(年額)約70万円×2＝約140万円

4年修了（長期）：学費負担(年額)約35万円×4＝約140万円

*長期履修制度の詳細については、次のHPを参照してください。

<https://www.kokugakuin.ac.jp/admission/graduate/p1-2>

(3)大学院奨学金（経済支援型・学業奨励型）

大学院独自の給付型奨学金として、経済支援型と学業奨励型の2つがあります。

経済支援型では、申請者の経済状況（収入や世帯人数、扶養家族の状況等）を考慮して、特に経済的に困難な状況にある者に奨学金を支給しています(最大約40万円(Aランク))。

学業奨励型では、申請者の概ね過去1年間の学業の状況を考慮して、特に優秀な学業を修めた者に奨学金を支給しています（最大約40万円（Aランク））。

これら2つの奨学金の併給も認められていますので、経済的負担を大幅に軽減できるのが特徴です。

*大学院奨学金の詳細については、次のHPを参照してください。

<https://www.kokugakuin.ac.jp/admission/graduate/p2>

5. 科目等履修生+先取り履修制度

正規の大学院生として入学しなくても、大学院の単位を修得する方法があります。これが「科目等履修生」の制度です。

受講を希望する科目を申請して、その申請が承認されると、他の大学院生と同様に授業に参加することができます（別に受講料等の支払いが必要です）。また、所定の成績を収めることにより、単位修得と成績評価が認められます。修得した単位は、本学大学院に入学した後に、大学院の要修了単位として認定されることがあります（先取り履修）。

科目等履修生により単位を修得した後に、本学大学院を受験して入学し、先取り履修の単

位が認定されると、その分、大学院入学後に修得すべき単位が少なくなります。これにより、論文執筆に専念することが可能となります。

* (例) 科目等履修生として令和4年度に4単位、令和5年度に6単位、それぞれ修得した後に、令和6年度に大学院に入学して10単位全てが要修了単位として認定されると、残りの必要単位は20単位になります。

* 要修了単位として認定されるか否かは、各研究科委員会（大学学部の教授会に相当）が判断します。原則として、申請者の研究テーマに関連する単位は全て認定されることが予定されています。

* 科目等履修生の詳細については、次のHPを参照してください（令和5年度版）。令和6年度の募集要項については、1月に公開予定です

<https://www.kokugakuin.ac.jp/news/336471>

6. オンライン授業・論文指導の導入

一部の科目・演習・論文指導演習においては、Zoomを利用したリアルタイムでのオンライン参加が認められています（ハイフレックス型）。これらの科目等では、遠隔地からの受講が可能になりますので、仕事と学業との両立が容易になります。

なお、オンライン参加の可否は担当教員により変わりますので、受講を希望する教員と事前に相談が必要です。

* オンラインでの学修が認められる場合でも、学修の効果を高めるためや資料を収集するために定期的にキャンパスへの来校が求められる場合もあります。

7. 修士号取得に向けたモデルケース

社会人にとって学業と仕事を両立させることは容易ではありませんが、これらの諸制度を活用して計画的に学修を進めれば、修士号の取得が見えてくるでしょう。

また、職場によっては、週に1度研究日・研修日が認められていたり、1年間の休業制度を利用できたりする場合がありますので、これらを活用することもお勧めです。

(1)科目等履修生で学修・研究を進めて要修了単位の一部を修得した後に、大学院に入学して1年で論文を完成させる（早期修了）

モデルケース①

令和6年度：科目等履修生として4単位を修得（ハイフレックス型授業にオンライン参加）

令和7年度：科目等履修生として8単位を修得（週に一度の研究日に対面参加）

令和8年度：休業制度等を利用して1年間休職し、大学院に進学して18単位を修得して論文を完成

(2)長期履修制度を活用して、1年目で要修了単位の大部分を修得した後に、2-3年かけて論文を完成させる

モデルケース② 長期履修制度（4年）を利用

令和6年度：休業制度等を利用して1年間休職し、大学院に進学して22単位を修得

令和7年度：復職して定期的に論文指導（オンライン指導）を受けて4単位を取得して、論文を執筆

令和8年度：復職して定期的に論文指導（オンライン指導）を受けて4単位を取得して、論文を執筆

令和9年度：論文を完成

(3)長期履修制度を活用して、働きながら少しずつ単位を修得して3-4年かけて論文を完成させる。

モデルケース③ 長期履修制度（4年）を利用

令和6年度：大学院に進学して、仕事を続けながら研究日・オンライン授業を活用して8単位を修得

令和7年度：仕事を続けながら研究日・オンライン授業を活用して8単位を修得し、論文を執筆

令和8年度：仕事を続けながら研究日・オンライン授業を活用して8単位を修得し、論文を執筆

令和9年度：仕事を続けながら研究日・オンライン授業を活用して6単位を修得し、論文を完成

(4)科目等履修生と長期履修制度の両方を利用して、5-10年の長期的なスパンで論文を完成させる。

モデルケース④ 長期履修制度（3年）を利用

令和6年度：科目等履修生として4単位を修得（週に一度の研究日に対面参加）

令和7年度：科目等履修生として4単位を修得（週に一度の研究日に対面参加）

令和8年度：大学院に進学して、仕事を続けながら研究日・オンライン授業を活用して8単位を修得

令和9年度：仕事を続けながら研究日・オンライン授業を活用して8単位を修得し、論文を執筆

令和10年度：仕事を続けながら研究日・オンライン授業を活用して6単位を修得し、論文を完成

（このケースの長期履修は、令和8-10年度の3年になります）

以上の例はあくまでモデルケースですので、進学希望者の置かれている状況や研究テーマ、研究方法および指導教員の意向等によって研究計画は変わっていくものと思われます。したがって、指導を希望する教員と事前に綿密に相談しておくことが不可欠です。

8. その他

社会人のリカレント教育に関しては、今後も様々な制度改革が予定されていますので、進

学を希望される場合には、本学大学院事務課と綿密に連絡を取ることをお勧めします。

相談窓口：國學院大學大学院事務課 若木タワー5階

電話番号 03-5466-0142

E-mail: daigakuin-j@kokugakuin.ac.jp